

かずさの博物誌

オナガガモ

～アメリカ大陸と
日本を行き来する～

文・写真／成田篤彦

2012.11.20



▲オナガガモの雄＝カモ目カモ科、中型のカモ、冬鳥、全長雄約75cm、雌約52cm。〈2012年3月12日袖ヶ浦市〉

上総では冬季にたくさんのカモ類が河川や公園の池や堰（せき）にやってくる。だが、野鳥が好きなのに、カモ類にはほとんど興味が湧かなかった。理由は種類の区別が付きにくいからである。それぞれのカモは種類ごとにまっって水面に休息している。しかし、多くの種類が広大な水域に何千羽も群れていて、ゆつくりと移動している。それを遠くから見ると皆、同じ格好に見える。まして、雌は互いに色彩や形が似ていて、ほとんど区別がつかない。名前が分からなければ、まずと関心が薄くなる。

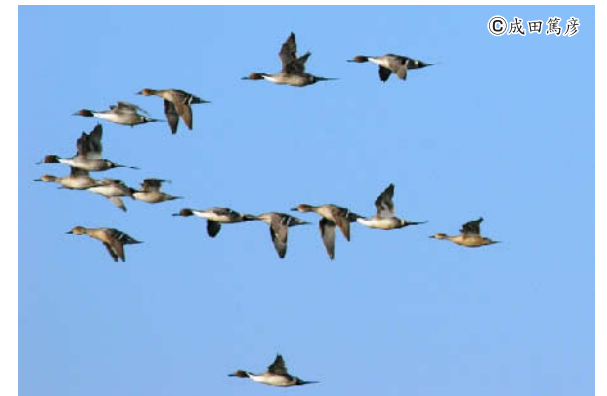
さて、上総の冬季に水面で休息しているカモの主な種類はカルガモ、マガモ、コガモやヒドリガモ、オカヨシガモ、スズガモ、ヨシガモなど



▲オナガガモの雄(左)と雌(右)＝〈2012年3月12日袖ヶ浦市〉

である。その中で、オナガガモは一目で違いが分かるようになった。オナガガモも他のカモと同じで、色彩は、雄が美しい。頭がチョコレートのような艶のある濃い茶褐色である。また、胸が真っ白で、うなじに沿って、頭の後ろまで、白い筋が食い込んでいる。これがよく目立つ。そして、2枚の中央の尾羽がピンと後ろに突き出ている。飛んでいる時に首がやや長いので、スマートに見える。

雌は全体に褐色で、黒褐色の班（まだら）がある。尾は雄よりも短い。くちばしは全体に黒い。これらの特徴は他のカモと一緒に水面を動き回っているとなかなか気づかない。しかし、写真を撮ってパ



▲オナガガモの飛行＝夕方採食地に向かう。＝〈2006年1月12日富津岬〉



▲オナガガモのえさ採り＝手前の3羽が雌、奥の1羽が雄。＝〈2009年12月15日富津岬〉

ソコンの画面でそれぞれのカモ類を凶鑑と見比べているうちに次第にわかるようになった。

上総では河川の下流域、公園の広い池、河口や内湾などに他のカモ類と共に数百羽で越冬している。時々、浅い水面に首を差し込み、上半身を水面に潜らせ、海藻や水草を食べている。また、公園でパンくずなどのえさを投げると寄ってきて食べる。

彼らは北半球北部で広く繁殖し、冬は南の温帯に渡って越冬する。日本にはロシア北東部で繁殖しているものがほとんど越冬に渡来する。しかし、中にはカナダの五大湖にいたものが千葉県に渡って来たこともある。（北川捷康1976「静岡県自然四季の野鳥」静岡新聞社）。

また、日本で越冬する彼らの一部は年によって、アメリカ合衆国で越冬することもあると考えられている。身近にたくさんいて、親しみ深いカモだが、それほど彼らの渡りのスケールは大きいとは思わなかった。それを知るとパンくずに寄ってくるオナガガモに一目置いて見るようになった。

皆さんもこの冬、オナガガモに会いに公園などの池に行ってみてはいかがでしょう？